

(様式2)新規評価シート

事業名		経営体育成基盤整備事業		路河川名等		
事業毎の通番		1	市町村名	池田町	箇所名(ふりがな)	
事業目的		本地区は、池田町の南西部に位置し、昭和20～30年代に開田事業により整備されているが、ほ場が狭小で、形状が異なる区画が混在しているほか、道路に接していないほ場があるなど道水路の整備が十分に行われていないため、高齢化や担い手不足による農地の荒廃化が懸念されている。このため、地域で活動する営農組織や認定農業者等への集積・集約化を進めるため、ほ場整備により水田の大区画化・汎用化を実施して生産効率を高めるとともに、計画地の一部を水稲からワイン用ぶどう等の高収益作物に転換し、競争力の高い農業を実現する。				
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け		2-4収益性と創造性の高い農林業の推進(多様な技術の活用による効率的な経営の促進)	事業実施の根拠法令等	土地改良法		
関連する事業、計画等		第2期長野県食と農業農村振興計画、第7次長野県土地改良長期計画、池田町第5次総合計画、池田町都市計画マスタープラン				
保全対象・範囲 受益対象・範囲		受益面積 A=61ha 受益戸数 130戸				
着手年度	平成30年度	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	平成35年度	費用対効果	1.2		国庫 353,250 その他 785,000 県債 388,575 一般財源 43,175	
全体事業内容(主な工種)	ほ場整備工A=61ha、客土A=55ha 用水路工L=9,200m、排水路L=6,500m、農道工 L=12,300m			1,570,000	785,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	<ul style="list-style-type: none"> 作物の生産性向上 [ワイン用ぶどう等の高収益作物への転換等] 営農経費の節減 [ほ場の大区画化と担い手への農地集積・集約化による労働費や機械経費の節減] 維持管理費の節減 [農道の舗装や水路の改修による維持管理労力、経費の節減] 				
	間接的効果(定量的・定性的)	<ul style="list-style-type: none"> 耕作放棄地の発生防止 [ほ場条件の改善による耕作放棄地の発生防止] 農業集落の定住促進 [換地による公共用地の創設] 				
評価の視点	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ○受益戸数 : 130戸 ○受益面積 : 61ha ○担い手への農地利用集積率 : 集積計画 54.7ha / 61.3ha = 89.2% 			評価	A
	重要性	<ul style="list-style-type: none"> ○用水不足、排水不良 : 用水路に接続していない水田がある ○関連計画等 : 第2期長野県食と農業農村振興計画、第7次長野県土地改良長期計画、池田町第5次総合計画 ○人・農地プラン : H24年度に策定し、H27年度に見直し済み ○地域指定(特定農山村、過疎、振興山村): 指定なし ○ほ場面積(標準区画) : 平均8aのほ場を、平均30aに拡大 ○日本型直接支払制度 : 多面的機能支払交付金の活動組織あり(池田町農業再生協議会) 			評価	B
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ○費用便益比(B/C) : 1.22 ○事業期間 : 6年間(H30～H35) ○工法等の比較検討 : 検討あり(水路構造・断面の検討) 			評価	A
	緊急性	<ul style="list-style-type: none"> ○近年の自然災害 : 豪雨により用水路の溢水被害等が発生(過去5年間に2回) ○用水の状況 : 水利施設の老朽化(漏水発生、維持管理労力の増大) ○道路の状況 : 支線農道が未改良(未舗装・幅員不足、農道に接続していないほ場あり) 			評価	A
	計画熟度	<ul style="list-style-type: none"> ○事業情報の共有 : H25年以降、自治会を対象とした説明会を実施 ○地域の取組 : H25.7月に検討委員会を設立、H29.3月に実行委員会を設立 ○地域の合意形成 : 事業目的や整備手法について地域の合意形成が図られている ○住民との協働 : 多面的機能支払を活用した地域住民参加による維持管理活動を実施 			評価	A
	所管課意見	区画が狭小で道水路も十分な整備が行われておらず、営農に支障をきたしているため必要性・緊急性が高い。農地の集積と高収益作物(ワイン用ぶどう)の導入により、農業競争力の強化を図るため必要性が高い。			採択状況	○
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。					

【位置図、平面図、構造図等】

事業概要説明図表



現在の状況



後継者不足による
荒廃農地の増加
の懸念

農地が狭小で
作業効率が悪い

ワイン用ぶどう栽培の
農地の確保

整備後のイメージ



①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本地区は、昭和20～30年代に開田事業により整備されているが、区画の形状が異なるほ場が混在しているほか、道路に接していないほ場があるなど道水路も十分に整備されていないため、高齢化や担い手不足による農地の荒廃化が懸念されている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	ほ場の区画が狭小で、作業効率も悪く、農家の高齢化による担い手不足や荒廃化が懸念されるようになったため、平成24年度に地元からほ場整備導入について要望があった。平成25年7月に検討委員会を設立し、自治会も参加し、営農計画等の検討を数回にわたり行っている。平成29年3月25日に実行委員会を設立。営農委員会により営農計画の検討を行っている。
③事業説明等の経緯	H24.8 ほ場整備の概要について地権者説明会 H25.5～ ほ場整備事業の導入に関する自治会への説明会 H25.12～ ほ場整備事業の採択に向けた検討委員会との打合せ H29.3～ ほ場整備の整備手法や営農計画等について実行委員会との打合せ
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	第2期長野県食と農業農村振興計画等に基づき、効率的な生産活動ができる農業生産基盤の整備を行う。池田町第5次総合計画において、効率的で持続可能な農業推進のため担い手の経営規模拡大を推進することとし、本地域のほ場整備の推進が位置づけられている。また、池田町都市計画マスタープランにおいて本地区は南部田園集落エリアとし、水田農業の大規模集約化及び畑地作物への転作促進が位置づけられている。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	水路法面や水田畦畔の表土を保全し、在来動植物を保全することで、自然環境への影響を回避する計画としている。
⑥地域活性化への影響と配慮	水田の汎用化によりワイン用ぶどう栽培の導入を計画しており、新規就農者の参入やワイン用ぶどうの産地化が期待される。
⑦その他	

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 138° 00' 00" 00
東経:E 36° 00' 00" 00